

# 国立科学博物館所蔵ヤマイヌ剥製標本は ニホンオオカミ *Canis lupus hodophilax* か？

小森日菜子<sup>1</sup>・小林さやか<sup>2,\*</sup>・川田伸一郎<sup>3</sup>

<sup>1</sup>墨田区立小梅小学校 〒131-0033 東京都墨田区向島2-4-10  
(現所属：品川女子学院中等部 〒140-8707 東京都品川区北品川3-3-12)

<sup>2</sup>山階鳥類研究所 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115

<sup>3</sup>国立科学博物館動物研究部 〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

\* E-mail: kobayashi@yamashina.or.jp

(2023年3月9日受領；2023年12月20日受理)

## Is a Skin Specimen of ‘*Yamainu*’ in the Collection of the National Museum of Nature and Science, Tokyo, a Japanese wolf *Canis lupus hodophilax*?

Hinako Komori<sup>1</sup>, Sayaka Kobayashi<sup>2,\*</sup> and Shin-ichiro Kawada<sup>3</sup>

<sup>1</sup> Koume Elementary School of Sumida Ward,  
2-4-10 Mukojima, Sumida-ku, Tokyo, 131-0033, Japan.

(Current address: Shinagawa Joshi Gakuin,  
3-1-12, Kitashinagawa, Shinagawa, Tokyo 140-8707, Japan)

<sup>2</sup> Yamashina Institute for Ornithology,  
115 Konoyama, Abiko, Chiba, 270-1145, Japan.

<sup>3</sup> Department of Zoology, National Museum of Nature and Science,  
4-1-1 Amakubo, Tsukuba, Ibaraki 305-0005, Japan.

\*E-mail: kobayashi@yamashina.or.jp

(Received 9 March 2023; accepted 20 December 2023)

**Abstract** A mounted skin of unknown species belonging to genus *Canis* deposited in the National Museum of Nature and Science, Tokyo (NSMT) is certificated morphologically and bibliographically. The specimen label is described as ‘a kind of Yamainu’ and M831 of the Tokyo Imperial Household Museum collection, while the specimen catalog says that M831 was derived from an individual kept at Ueno Zoo and that it was disposed of after. This specimen seemed to be confused with another one. So, we examined the morphological characteristics of this specimen and traced the history of *Canis* sp. specimens of the Tokyo Imperial Household Museum collection and *Canis* sp. kept at Ueno Zoo. As a result, measurements of this mounted skin were reasonable to be within the range of specimens previously identified as Japanese wolves. We confirmed that this specimen is correctly labeled as M831. This specimen M831 was considered to be one of two wolves that arrived at Ueno Zoo from Iwate Prefecture, Japan, in 1888. Therefore, it is thought that this specimen is a Japanese wolf. This study may have revealed a new Japanese wolf skin specimen that had previously been overlooked.

**Key words:** Imperial Household Museum, Tokyo National Museum, Ueno Zoo.

## はじめに

ニホンオオカミ *Canis lupus hodophilax* はかつて本州、四国、九州に生息していたが、1905年に奈良県で採集された個体を最後の確実な記録として、20世紀初頭に絶滅した(Ohdachi *et al.*, 2015). ニホンオオカミの剥製標本は、国内では本剥製3点(国立科学博物館, 東京大学大学院農学生命科学研究科, 和歌山大学教育学部), 海外では本剥製1点(オランダ国立ナチュラリス生物多様性センター(旧ライデン自然史博物館))と仮剥製1点(大英自然史博物館)の計5点が知られている(石黒ほか, 2021). このほか, ベルリン自然史博物館に毛皮標本1点が保存されている(石黒ほか, 2021).

国立科学博物館では, 明治期に福島県で採集されたニホンオオカミの剥製標本(標本番号: NSMT-M100)を上野本館で展示しており, これが同館所蔵の唯一の剥製標本としている(国立科学博物館, 2016). 著者の小森は, 2020年11月3日国立科学博物館筑波研究施設で開催された「科博オープンラボ2020」に参加した際に, NSMT-M100とは別のニホンオオカミに似た剥製標本が自然史標本棟の標本棚に置かれていることに気がついた(図1). この剥製の口吻部の輪郭がニホンオオカミのタイプ標本の姿を描写した『Fauna Japonica』(Temminck, 1842–1844)の図と類似し, 額段が浅

く, 前肢が短く, 頬ひげがある点がニホンオオカミに似ていると考えたからである(小森, 2021). 以後, この標本を「当該標本」と表記する.

近年ニホンオオカミをめぐるのは, オランダ国立ナチュラリス生物多様性センターが所蔵するタイプ標本がイヌとニホンオオカミの雑種であったなど, 分類学的な混乱が再発している(石黒ほか, 2021). あらゆる生物には個体変異が存在するため, わずか6点の毛皮標本だけからニホンオオカミの形態学的特徴を知るには不十分である. 1点でも多くの標本が追加されれば, ニホンオオカミという種, あるいは亜種の認識に必要とされる形態学的特徴がより明確になるであろう. 当該標本は戦前の論文や著作(斉藤, 1938; 大浦, 1934)で紹介されたが, 国立科学博物館の哺乳類標本が「NSMT-M」を冠する登録番号で整理された1950年以降, 同館の哺乳類担当者からも存在の認識が浅く, 詳しい種同定は行われていなかった. また, 詳しくは後述するが当該標本は標本番号に混乱が見られ, 当該標本の標本番号の特定, 取り付けられたラベル情報の検証が必要であった.

本研究では, 形態学的特徴を加味し, 当該標本のラベル, 標本台帳, 文献, 本研究で見出された関連資料から, 当該標本の採集, あるいは取得情報を検証して, ニホンオオカミである可能性を検討する.



図1. 国立科学博物館が所蔵する「ヤマイヌの一種」とされる剥製標本.

Fig. 1. Mounted skin specimen of 'a kind of yamainu' in the collection of the National Museum of Nature and Science, Tokyo (NSMT).

## 材料と方法

### 当該標本の既存情報

#### 1) 当該標本のラベルと台帳の情報

当該標本には、台座の裏に「東京科学博物館」(學=学)と印字された標本ラベルが張り付けられていた。このラベルには、「No.: 舊M831, 和名: ヤマイヌの一種, 採集者: 22年旧博物館引継(元動物園飼養)」(舊=旧)と記され、学名、産地、備考欄は未記入であった(図2A)。さらに台座前方には、標本番号を示すと思われるシールが貼付され、一部が破れているため完全に解読はできないが、「38」あるいは「88」と読める番号が押

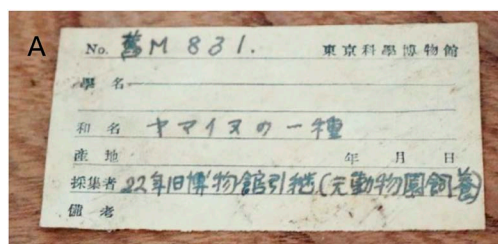


図2. A: 当該標本の台座の裏に貼付された標本ラベル. B: 台座の前方に貼付されたシール.

Fig. 2. A: Specimen label on the pedestal of this specimen. B: Label attached to the front of the pedestal.

印されていた(図2B)。

また、国立科学博物館には、かつて帝室博物館が所蔵していた哺乳類標本が記載された標本台帳『列品目録 哺乳類 天産部』(以後、天産部台帳)が保管されている。この台帳には、M1からM953までの標本が順に記載されている。天産部台帳のM831には「番號: M831, 品目: やまいぬ, 産地: 記載なし, 数量: 1, 製法: 剥製, 價格: 1円, 備考: 二十二年舊博物館引継(元動物園飼養)」(番號=番号, 價格=価格)と記載されたうえで、標本番号に斜線が引かれ、産地欄の右側に「廃」のスタンプが押されていた(図3)。この記載からはM831は廃棄された標本と読み取れる。

標本ラベルや天産部台帳の内容を理解するには、国立博物館の歴史の把握が必要である。日本の国立博物館は年代によって名称変更を繰り返しているため、国立科学博物館と東京国立博物館の年代ごとの名称を表1に示した。国立科学博物館で標本番号M1からM953までの哺乳類標本は(現在の標本番号はNSMT-M1からNSMT-M953まで)、1923年に発生した関東大震災で東京博物館(現・国立科学博物館)の全ての標本が焼失したため、東京帝室博物館(現・東京国立博物館, 以後、帝室博物館)から移管されたものであった(国立科学博物館, 1977)。

当該標本のラベルと天産部台帳のM831に共通して記載されていた「二十二年旧博物館引継(元動物園飼養)」については、1889(明治22)年に帝室博物館の前身である宮内省博物館が帝国博物館へ名称変更した際に引き継がれた標本であり(小林・加藤, 2017, 表1), 「元動物園飼養」は、1889年当時、帝国博物館の付属施設であった動物園(現・東京都恩賜上野動物園)で飼育されていたことを意味する(表1)。標本ラベルや台帳の情報を整理すると、当該標本は1889年以前に上野動

番	品	数量	製法	價格	備	考
M828	とさざび (蛙)	1	剥製	2.00	二十二年舊博物館引継(元動物園飼養)	
M830	けねずみ	1	剥製	2.00	同	(同)
M831	やまいぬ	1	剥製	1.00	同	(同)
M832	かまか (皮)	1	剥製	3.00	同	(同)

図3. M831に対応する標本台帳「列品目録 哺乳類 天産部」の記載(国立科学博物館所蔵)。

Fig. 3. Description of the specimen in the catalog corresponding to M831. This catalogue is owned by NSMT.

表1. 東京国立博物館, 上野動物園, 国立科学博物館の年代ごとの名称 (東京国立博物館, 1973; 国立科学博物館, 1977; 東京都恩賜上野動物園, 1982).

Table 1. Chronological names of the Tokyo National Museum, Ueno Zoo, and National Museum of Nature and Science, Tokyo (NSMT).

西暦 Year	和暦 Japanese calendar	東京国立博物館 Tokyo National Museum	上野動物園 Ueno Zoo	国立科学博物館 NSMT
1872	明治5	博覧会 (創立) Exhibition (Founding)		
1873	6	博覧会事務局 Exposition office		
1875	8	内務省博物館 Museum of the authority of the Ministry of Home Affairs		東京博物館 Tokyo Museum
1877	10			教育博物館 (創立) Museum of Education (Founding)
1881	14	農商務省博物館 Museum of the authority of the Ministry of Agriculture and Commerce		東京教育博物館 Tokyo Education Museum
1882	15		農商務省博物館 第二付属館 (開園) Zoo attached to the Museum of the authority of the Ministry of Agriculture and Commerce (Founding)	
1886	19	宮内省博物館 Museum of the authority of the Ministry of the Imperial House- hold	動物園 (宮内省博物館所属) Zoo attached to the Museum of the authority of the Ministry of the Imperial Household	
1889	22	帝国博物館 Imperial Museum	動物園 (帝国博物館所属) Zoo attached to the Imperial Museum	
1900	33	東京帝室博物館 Tokyo Imperial Household Museum	動物園 (東京帝室博物館所属) Zoo attached to the Tokyo Imperial Household Museum	
1907	40		上野動物園 (東京帝室博物館 所属) Ueno Zoo attached to the Tokyo Imperial Household Museum	
1921	大正10			東京博物館 Tokyo Museum
1923	大正12	【関東大震災 Great Kanto Earthquake】		
1924	13		上野恩賜公園動物園 (宮内省 から東京市に下賜) Ueno Zoological Gardens (placed under Tokyo city)	
1931	昭和6			東京科学博物館 Tokyo Science Museum
1947	22	国立博物館 National Museum	恩賜上野動物園 Ueno Zoological Gardens	
1949	24			国立科学博物館 National Science Museum
1952	27	東京国立博物館 Tokyo National Museum		

物園で飼育され, 1889年までに帝国博物館に存在していた剥製標本と解釈される。

以後, 帝室博物館, 上野動物園については, 前身の機関を含めて「帝室博物館」, 「上野動物園」と表

記する。国立科学博物館の前身の機関については, 断りのない限り「国立科学博物館」と表記する。

## 2) 文献による当該標本の記載

当該標本のラベルに記載された標本番号M831について、国立科学博物館に所蔵されるヤマメヌ標本を調査した齊藤（1938）では、標本台帳に「廃棄処分旨記入がある」と記載されていた。また、大浦（1934）には当該標本と推定される剥製標本の写真が掲載され、「山東省産狼（東京科学博物館蔵）」と説明されていた。これらの文献では、天産部台帳の記載を含め、M831を廃棄と記載している点、天産部台帳のM831には産地が記載されていないのに中国山東省産と説明している点に矛盾があった。

当該標本のラベルや天産部台帳に記載された「元動物園飼養」について、上野動物園の園史によれば、帝室博物館から国立科学博物館へ移管された標本の中には、上野動物園で飼育され死亡した動物の標本も多く含まれていた、との記述があり（東京都恩賜上野動物園，1982; P.90）、帝室博物館所蔵の標本であったM831が上野動物園で飼育されていたとの解釈に矛盾はなかった。

また同書には、国立科学博物館に移管された剥製標本の中にニホンオオカミがあったとの記述もあった（東京都恩賜上野動物園1982; P.90）。しかし、国立科学博物館が所蔵する唯一のニホンオオカミ剥製標本NSMT-M100について、天産部台帳に上野動物園で飼育された記述はなく、国立科学博物館が所蔵する標本の中に、上野動物園で飼育されていたニホンオオカミ標本の存在は知られていなかった。

## 3) 当該標本の問題点の整理

当該標本の問題点を整理すると次のとおりである。

当該標本の標本番号について、標本ラベルでは「M831」と記載されていた一方で、一部破れたシールでは「38」あるいは「88」であり、標本に貼付されたラベル間で標本番号が混乱していた。

当該標本がM831であった場合、当該標本は現存するにもかかわらず、天産部台帳では廃棄と記載され、齊藤（1938）でもこれに言及していた。

また、M831は天産部台帳で産地不明であるが、大浦（1934）では中国山東省産と記載され、当該標本と天産部台帳、齊藤（1938）、大浦（1934）の記載との間に矛盾があった。

## 調査方法

## 1) 当該標本の外部形態の検討

当該標本について、外部形態の特徴を記載し、

次に挙げる各部位の測定を行った。

最大長：鼻先から毛を含まない尾の先端までの直線長。

頭胴長：哺乳類で通常行われる仰向け状態での測定に見立てて、鼻先から尾根部を頭部額段（ストップ）は考慮せず背筋に沿った長さ。

胴長：胸から尾根部までの長さ。

尾長：尾根部から毛を含まない尾の先端までの長さ。

耳介長：破損部を含むため、折れ曲がり considerando して内側と外側を計測した長さ。

後足長：踵から爪を含まない指先までの長さ。

頭高：頭頂部の高さ。

肩高：足底から肩先端までの高さ。

橈骨長：肘関節の内側から手首関節までの長さ。

脛骨長：膝関節から足首関節までの長さ。

手掌幅：前足手掌部の最大幅。

頭長（鼻-後頭）：鼻先から後頭骨後縁部（後頭骨後縁にあたる部分を触診して耳の少し後ろあたり）までの長さ。

頭長（上唇-後頭）：上顎上唇から後頭骨後縁部（同上）までの長さ。

頭幅：頭骨では頬骨弓幅に相当するように頭部の最大幅を計測した長さ。

口長：下顎先端から口角までの長さ。

当該標本の各部位の測定値について、ニホンオオカミの既報値と比較し、当該標本の外部形態がニホンオオカミの特徴を有しているかを検討した。

## 2) 帝室博物館が所蔵していたイヌ属標本による当該標本の検証

当該標本は標本番号が混乱していたことから、帝室博物館が所蔵していた別のイヌ科イヌ属 *Canis* の標本と混同されている可能性があった。そこで、当該標本の標本番号を特定するために、天産部台帳からイヌ属標本を全て抜き出し、各標本の経緯から当該標本の標本番号を検証した。

帝室博物館が所蔵していた標本については、国立科学博物館所蔵の天産部台帳、帝室博物館の公文書を編年順に収録された『列品録』から情報を得た。

## 3) 上野動物園の飼育記録による当該標本の検証

当該標本の標本ラベルに記載された「元動物園飼養」の記述に基づき、上野動物園で飼育されていたイヌ属の飼育記録から当該標本の候補となる

個体を検討した。帝室博物館所蔵標本と上野動物園の飼育個体の検討から、当該標本の標本番号の特定と、どのような来歴を持つのかを考察した。

上野動物園の飼育記録は、動物の購入、寄贈、交換などの際の公文書などが編年順に収録された東京国立博物館所蔵の『動物録』、上野動物園所蔵の『明治四十五年以前 動物總目録』（東京市上野公園動物園作成）から情報を得た。

#### 4) 『東京帝室博物館列品台帳』による当該標本の検証

詳細は後述するが、天産部台帳の記載と上野動物園の飼育記録を照合した結果、当該標本の候補である個体の記載に齟齬が生じた。東京国立博物館に問い合わせたところ天産部台帳とは別の『東京帝室博物館列品台帳』が見出されたため、この台帳の記載を調べた。

#### 5) 当該標本の問題点の検証

帝室博物館所蔵標本や上野動物園の飼育記録からの検証結果を総合し、当該標本の問題点である標本番号の混乱、当該標本と天産部台帳、斉藤(1938)、大浦(1934)の記載間の矛盾について検証した。これらの検証の結果から当該標本がニホンオオカミである可能性を検討した。

### 結果と考察

#### 1) 当該標本の外部形態の検討

当該標本は、身体の大部分がタン色を帯びた灰褐色で、頭部と四肢以外は比較的長い毛で覆われていた。背中から尻にかけて濃いチョコレート色の毛が混ざり、側背面から尻付近で松皮模様が見られた。尾は房状の毛で先端が黒色であった。耳介から下顎にかけては頬髭があり、上下唇と頬は灰白色、下唇口角部と耳介後面及び前肢後肢裏側の一部に赤茶色の毛が混じっていた。口の隙間から歯は見えず、剥製内部に頭骨は入っていないと推測され、頭部の額段(ストップ)は浅く不明瞭だった。前肢は内側に狼爪があり5指、後肢は4趾で、爪はいずれも黒褐色だった。当該標本からは陰囊が確認され、オスと判定された。

当該標本は、身体の左側面はススのような汚れが付着し、毛が黒く変色した箇所があった。前肢は伸びた状態ではなく、肘を曲げて少しかかんでいるような姿勢をし、右足首と尾が紐で縛られ固

定されていた。また、左耳は横に倒れ、右耳は折れ曲がり、従来の成形ではなく、破損と考えられる箇所がある。

当該標本の各部位の測定値とニホンオオカミ標本の既報値の比較を表2に示した。大英自然史博物館に所蔵される日本で最後に捕獲されたニホンオオカミ剥製(以後、大英自然史標本)の頭胴長と尾長はそれぞれ914mmと340mm(平岩, 1981)、オランダ国立ナチュラリス生物多様性センター所蔵のタイプ標本(以後、ライデン標本)は820mmと310mm(小原2002)、国立科学博物館所蔵のM100は900mmと300mm(北村ほか1999)である。当該標本がこれらの中間的なサイズであることは明瞭である(表2)。なお国立科学博物館の今泉(1960)は計測した標本を明記せずニホンオオカミの頭胴長を950–1140mmとした。当時同館に存在した剥製としてはM100があったはずだが、北村ほか(1999)の測定値よりはかなり大きくなっている(表2)。すなわち剥製の測定値は計測者によって違いが出るもので、誤差幅を大きく見ておく必要がある。

当該標本の肩高は460mmで、ライデン標本の405mm(小原2002)よりはかなり高い値となった(表2)。一方、国立科学博物館所蔵の本剥製M100では470mm(北村ほか1999)、和歌山大学所蔵と東京大学所蔵の本剥製はそれぞれ525mmと478mm(福田1948, 1949)と記録されており、当該標本は必ずしも逸脱した肩高ではないと考えられる。前述頭胴長と尾長の測定値から考えると、ライデン標本はかなり小型の標本と考えられるので、肩高も低い値となったと考えられる。

これに関連して、四肢については前肢の前面の関節から手首関節を橈骨長として160mm、後肢の膝関節から足首関節を脛骨長として190mmの測定値を得た(表2)。斉藤(1964)では、ニホンオオカミの橈骨長は175–178mm、脛骨長は190–200mmとされているので、前肢が短めという結果になった。本研究では骨の実測ではなく、剥製の部位から想定される骨長を測定したので参考程度であるが、当該標本がかなり小型のオオカミであることに疑いはない。なお、後足長は左右ともに230mmで、吉行(1989)の200mmと今泉(1960)で示されている245–250mmの中間的な値だった(表2)。

次に頭部について計測結果を検討する。ニホンオオカミの同定には頭骨形状が重視されている。

表2. 当該標本の測定値とニホンオオカミ標本の既報値の比較.

Table 2. Comparison of measurements of this specimen with those of known Japanese wolf specimens.

計測箇所	当該標本	大英	ナチュラ	国立科学博物館		ニホンオオカミ		和歌山大学		東京大学
		自然史博	リス	(M100)	(M100)	(最小-最大, 一般)				
	本剥製 本研究	仮剥製 平岩1981	本剥製 小原2002	本剥製 北村1999	骨格 南1999	骨格 齋藤1964	今泉1960	本剥製 福田1949	骨格 石黒2012	本剥製 福田1948
最大長	980									
頭胴長	880	914	820	900			950-1140			
尾長	330	340	310	300			300	350		
頭高	530									
肩高	460		405	470				525		478
橈骨長	160				176.1	175-178				
脛骨長	190					190-200				
後足長	230		157.5				245-250			
頭長 (鼻-後頭)	260									
頭長 (上唇-後頭)	240				214.3*1	203-236*1			219.2*1	
頭幅	125				124.4*2				123.4*2	
胴長	500			685				700		637
耳介長 (内側)	80	86	80				80-81			
耳介長 (外側)	105									
手掌幅	55									
口長	115									

\*1: 頭骨全長として計測.

\*2: 頬骨弓幅として計測.

すなわち額段の形状、歯の大きさ、神経孔の数などに着目して判断がなされるべきである。当該標本は頭骨を欠くため、剥製の頭長と頭幅から頭蓋長と頬骨弓幅の数値を推測した。頭長 (鼻-後頭) は260mm、頭長 (上唇-後頭) は240mmとなった (表2)。頭蓋長は鼻軟骨部分が含まれないので240mm程度であったと推定される。また眼窩の後ろあたりが左右ほぼ平行になっているので、このあたりを左右の頬骨弓がある場所と判断すると、頬骨弓幅は125mm程度と推定される。なお、いずれの測定値も毛皮の上から測定したので、頭骨サイズよりも大きめに測定されていると考えられる。

齋藤 (1964) ではニホンオオカミの頭蓋長は203-236mmとされており、当該標本の推定頭骨全長はおおむね最大値に近い印象がある。通常本剥製の頭部には、剥皮後の肉付きの頭部を型取りしたり模して作成したものが頭芯として入っている。仮に当該標本がそのようにして作成されたならば、頭部は側頭筋などの盛り上がりを含むことになるため、実際の頭蓋長は推定頭蓋測定値よりも若干小さいと考えられる。また頬骨弓幅は国立科学博物館M100が124.4mm (南ほか1999) や和歌山大学教育学部所蔵標本123.4mm (石黒2012) に対して当該標本の推定値は125mmのため、近い値に入る。以上のことから、頭骨サイズに注目しても当該標本はニホンオオカミとして知

られる測定範囲に収まるものと考えられる。

当該標本の各部位の測定値とニホンオオカミの既報値を比較した結果、大きな差異は見られなかった (表2)。ニホンオオカミは一般に体高が低く、中国や朝鮮半島など大陸の亜種よりは小型のオオカミとして知られる (齋藤1964)。本剥製は製作者がサイズや形状を調整できるため、生前の姿形が忠実に再現されているかという問題は残るが、各部位の大きさから当該標本は、ニホンオオカミと考えても妥当であった。

## 2) 帝室博物館が所蔵していたイヌ属標本による当該標本の検証

帝室博物館が所蔵していたイヌ属標本を天産部台帳から抜き出したところ、24点が確認された (表3)。このうち、天産部台帳で廃棄や転出の記載がない標本は、M100「やまいぬ *Canis (Lupus) hodophylax*」 (原文ママ。天産部台帳ではニホンオオカミの種小名がすべて誤記されているので、引用部分では原文ママとする)、M101「やまいぬノ一種 *Canis (Lupus) sp.*」、M102「やまいぬノ一種 *Canis (Chrysocyon) latrans*」、M838、M887「やまいぬ」 (学名の表記なし)、M873「いぬ」、M903「洋犬 センベルナール種」で、うち剥製標本はM100、M101、M102、M903であった (表3)。M100は国立科学博物館上野本館で展示されているニホンオオカミ、M102は学名の表記から現在の和名

表3. 帝室博物館が所蔵していたイヌ属標本の標本台帳の記載。「震」は1923年の関東大震災で消失した標本、「學」は関東大震災後に学習院に移管された標本を意味する(小林・加藤2017)。

Table 3. Description in the catalogue, stating that the Tokyo Imperial Household Museum holds specimens of the genus *Canis*.

ID	台帳 番号 Catalog number	種名 Species	性 Sex	産地 Locality	数量 Quantity	製法 Specimen category	価格 Value	備考 Notes	台帳の廃棄, 転出等の記載 Description of its disposal and transfer in the catalog	転出等の出典 Reference	現存する 標本 Extant specimens
1	M100	やまいぬ <i>Canis (Lupus)</i> <i>hodophylax</i> *1 Tem (Japanese Wolf)	牡 Male	岩代 Iwashiro	1	剥製 Mounted skin	40.00	二十二年舊博物館引継 Inherited from the previous Museum in 1889.			NSMT-M100 本剥製 Mounted skin
2	M101	やまいぬノ一種豺 <i>Canis (Lupus)</i> sp. (Chinese Wolf)	牡 Male	清国山東省 Shandong, China	1	剥製 Mounted skin	40.00	二十八年四月動物園引継 (元林権助献納) Inherited from the Ueno Zoo in 1895.			
3	M102	やまいぬノ一種(ブ レイリイウオルフ) <i>Canis (Chrysocyon)</i> <i>latrans</i> Say (Prairie Wolf)	牝 Female	米國 モンタナ列 Montana, North America	1	剥製 Mounted skin	50.00	二十三年東京教育博物館 引継 Transfer from the Tokyo Education Museum in 1890.			NSMT-M102 頭骨として 現存 Skull
4	M106	ヅング <i>Canis dingo</i> Blum. (Dingo)	牡 Male	濠洲 Australia	1	剥製 Mounted skin	30.00	二十二年舊博物館引継 (元チャアレスフレレン 献納) Inherited from the previous Museum in 1889.	大正9年5月17日 廃棄処分 Disposed of on 17 May 1920.		
5	M107	ちん 拂林狗 <i>Canis familiaris</i> <i>molossus</i> sp.	牡 Male	横濱 Yokohama	1	剥製 Mounted skin	10.00	三十二年二月糸井梅献納 Donated by Ms. Itoi in February 1889.	震*2 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924; 1926b)	
6	M108	ダックス フンド <i>Canis familiaris</i> <i>vertagus</i>	牡 Male		1	剥製 Mounted skin	20.00	二十二年舊博物館引継 (元有栖川宮御寄付) Inherited from the previous Museum in 1889.	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
7	M109	ダックス フンド <i>Canis familiaris</i> <i>vertagus</i>	牝 Female		1	剥製 Mounted skin	20.00	二十二年舊博物館引継 (元有栖川宮御寄付) Inherited from the previous Museum in 1889.	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
8	M110	エスキモードグ <i>Canis familiaris</i> <i>domesticus borealis</i>	牡 Male	千嶋 Chishima	1	剥製 Mounted skin	30.00	二十二年舊博物館引継 (元品川彌二郎献納) Inherited from the previous Museum in 1889.	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
9	M252	やまいぬノ一種 <i>Canis lupus</i>		北亜米利加 North America	1	剥製 Mounted skin	40.00	二十二年舊博物館引継 Inherited from the previous Museum in 1889.	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
10	M309	やまいぬノ一種 <i>Canis latrans</i> Say (Prairie Wolf)		北米子ブラ スカ Nebraska, North America	1	骨格 Mounted skeleton	45.00	二十三年東京教育博物館 引継 Transfer from the Tokyo Education Museum in 1890.	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
11	M310	やまいぬ <i>Canis hodophylax</i> *1 Tem (Japanese Wolf)		武蔵 Musashi	1	骨格 Mounted skeleton	35.00	二十二年舊博物館引継 Inherited from the previous Museum in 1889.	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
12	M311	やまいぬ <i>Canis hodophylax</i> *1 Tem		下野 Shimotsuke	1	骨格 (頭骨) Skull	5.00	二十二年舊博物館引継 Inherited from the previous Museum in 1889.	(明治) 四十五年 七月十五日学習院 女学部へ寄贈 Given to Gakushuin School on 15 July 1911.	東京帝室博物館 (1912)	
13	M427	やまいぬ <i>Canis</i>			1	骨格 (頭骨) Skull	4.00	二十三年東京教育博物館 引継 Transfer from the Tokyo Education Museum in 1890.	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	



表3. 続き.  
Table 3. Continued.

ID	台帳 番号 Catalog number	種名 Species	性 Sex	産地 Locality	数量 Quantity	製法 Specimen category	価格 Value	備考 Notes	台帳の廃棄, 転出等の記載 Description of its disposal and transfer in the catalog	転出等の出典 Reference	現存する 標本 Extant specimens
14	M461	いぬ 犬 <i>Canis familiaris</i> Dog	牡 Male	北海道 Hokkaido	1	剥製 Mounted Skin	3.00	二十八年九月動物園引継 Inherited from the Ueno Zoo in September 1895.	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
15	M462	いぬ 犬 <i>Canis familiaris</i> Dog	牡 Male	北海道 Hokkaido	1	骨格 Mounted skeleton	10.00	二十八年九月動物園引継 Inherited from the Ueno Zoo in September 1895.	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
16	M505	いぬ 犬 (グレインフンド種) <i>Canis familiaris</i> (Gray fund)			1	剥製 Mounted Skin	20.00	三十六年十月江澤田三郎 献 Donated by Mr. Esawada in October 1903.	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
17	M506	いぬ 犬 (グレインフンド種) <i>Canis familiaris</i> (Gray fund)			1	骨格 (頭骨) Skull	2.00	三十六年十月江澤田三郎 献 Donated by Mr. Esawada in October 1903.	学 Transferred to Gakushuin School after 1923.	東京帝室博物館 (1926a)	
18	M601	いぬ <i>Canis familiaris</i> (Gray fund)	牡 Male	独逸 Germany	1	剥製 Mounted skin	6.00	三十八年十二月本館製作 (元動物園飼養) Made in December 1905. (An individual kept at the Ueno Zoo)	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
19	M650	いぬ 犬 (マスタフ種) [ <i>Dog C. lupus</i> <i>familiaris</i> ] <sup>*3</sup>	牡 Male	米國 America	1	骨格 Mounted skeleton	18.00	三十七年十二月本館製作 (元動物園飼養) Made in December 1905. (An individual kept at the Ueno Zoo)	震 Lost in the Great Kanto Earthquake of 1923.	東京帝室博物館 (1924)	
20	M831	やまいぬ [ <i>Canis sp.</i> ] <sup>*3</sup>			1	剥製 Mounted skin	1.00	二十二年舊博物館引継 (元動物園飼養) Inherited from the previous Museum in 1889. (An individual kept at the Ueno Zoo)	廃 Disposal		
21	M838	やまいぬ [ <i>Canis sp.</i> ] <sup>*3</sup>		支那 China	1	仮骨格 Skeleton	10.00	二十二年舊博物館引継 (元動物園飼養) Inherited from the previous Museum in 1889. (An individual kept at the Ueno Zoo)			NSMT-M838 骨格 Skeleton
22	M873	いぬ [ <i>Dog C. lupus</i> <i>familiaris</i> ] <sup>*3</sup>			1	仮骨格 Skeleton	1.00	二十二年舊博物館引継 Inherited from the previous Museum in 1889.			
23	M887	やまいぬ [ <i>Canis sp.</i> ] <sup>*3</sup>			1	骨格 Mounted skeleton	10.00	二十三年東京教育博物館 引継 Transfer from the Tokyo Education Museum in 1890.			NSMT-M100 の骨格標本 Mounted skeleton
24	M903	洋犬 センベルナル種 [ <i>Dog C. l. familiaris</i> ] <sup>*3</sup>	牡 Male		1	剥製 Mounted skin	25.00	大正二年八月江澤吉奇 贈 Donated by Mr. Irie in August 1913.			

\*1: 原文ママ。正しい種小名は「*hodophilax*」(Temminck, 1839).

\*1: [sic] Correct species name is "*hodophilax*" (Temminck, 1839).

\*2: 関東大震災で消失したとされていたが残務整理で見つかり、大正15年1月に帝室博物館から文部省に譲渡された (東京帝室博物館1924; 1926b).

\*2: M107 was lost in the Great Kanto Earthquake but was found in its aftermath and transferred from the Tokyo Imperial Household Museum to NSMT in January 1926.

\*3: 各括弧内は、台帳の記載から推定される種.

\*3: Species in square brackets inferred from the description in the catalog.

ではコヨーテが該当し、M903はイエイヌ*C. l. familiaris*であることから、当該標本とは明らかに異なり、これら3点は除外できた。天産部台帳で廃棄や転出の記載がない標本のうち、当該標本の

可能性があるのはM101であった。

次に当該標本のラベルに上野動物園で飼育された記載があったことから、天産部台帳から上野動物園で飼育されていたイヌ属標本を抜き出したと

ころ, M101「やまいぬノ一種 *Canis (Lupus) sp.*」, M461, M462, M601, M650「いぬ」(M650以外は, *familiaris*が種小名として明記), M831, M838「やまいぬ」(どちらも学名の表記なし)で, うち剥製標本はM101, M461, M601, M831であった(表3). 4点のうちM461, M601イエヌは除外され, 当該標本の可能性があるのはM101とM831であった.

当該標本はオスとされ, 天産部台帳でM101は中国山東省産のオス, M831は採集地, 性ともに不明であったため(表3), 性別からはM101とM831のいずれも当該標本の候補になりえた.

当該標本に貼付されたシールの番号「38」あるいは「88」を天産部台帳で照合すると, M838「やまいぬ」のみがイヌ属に該当した(図1B, 表3). しかし, M838の所在を国立科学博物館で確認したところ, 骨格標本(NSMT-M838)として現存し, 天産部台帳の記載「仮骨格」の通りであった(図4). したがって, 当該標本はシールの標本番号と推定されるM838には該当していなかった.

なお, ニホンオオカミの名称については, 複数あったことが知られている(鈴木・佐々木, 2023). 天産部台帳ではM100, M310, M311 *Canis (Lupus) hodophylax* (ニホンオオカミ)を「やまいぬ」, M102, M309 *Canis (Chrysocyon) latrans* (コヨーテ), M252 *Canis lupus* (タイリクオオカミ)を「やまいぬノ一種」と記載していた. ニホンオオカミを「やまいぬ」, それ以外を「やまいぬノ一種」と表記していたと考えられる(表3). しかし, 「やまいぬ」と表記されたなかには, M427では属名のみ, M831, M838, M887では和名のみで学名の表記がなく, 種の特定ができない標本もあった(表3).

### 3) 上野動物園の飼育記録による当該標本の検証

帝室博物館が所蔵していたイヌ属標本のうち, 当該標本の可能性があるM101, M831, および当該標本のシールの標本番号と推定されるM838について, 上野動物園で飼育されていたイヌ属の記録と照合した(表4).

M101は1891年7月3日に朝鮮仁川領事の林



図4. 中国産ヤマインの骨格標本NSMT-M838 (国立科学博物館所蔵).

Fig. 4. Skeleton specimen (NSMT-M838) of a gray wolf *C. lupus* from China. This is owned by NSMT.

表4. 1911年までに上野動物園で飼育、死亡したイヌ属の記録。  
Table 4. Records of the specimens of the genus *Canis* kept at and dead at Ueno Zoo up to 1911.

ID	来園時の名称 Name at the zoo	推定される種 Presumed species	性別 Sex	産地 Locality	来園日 Date of arrival at the zoo	死亡日 Date of death	提供者 Donor	該当標本 (台帳番号) Catalog number	出典 Reference
1	犬*	イエイヌ <i>C. lupus familiaris</i>	オス Male	箱館(函館) Hakodate, Hokkaido	1875(明治8)年 3月以前 Before March 1875	不明 Unknown	織田賢司		飼育記録(内務省博物館, 1875)
2	狚犬	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	オス Male	拂國(フランス) France	1882(明治15)年 6月13日 13 June 1882	不明 Unknown	ホニーコント (仏国代理公使)		来園(農商務省博物館, 1882)
3	犬	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	オス Male	千嶋 Chishima	1883(明治16)年 9月 September 1883	1887(明治20)年 9月9日 9 September 1887	品川彌二郎	M110(剥製 Skin)	来園(農商務省博物館, 1883), 死亡(博物館, 1887a)
4	洋犬	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	オス Male	繁殖 Breeding	1887(明治20)年 6月11日 11 June 1887	1887(明治20)年 8月22日 22 August 1887	有栖川宮	M108(剥製 Skin)	来園(博物館, 1887b), 死亡(博物館, 1887c)
5	洋犬	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	メス Female	繁殖 Breeding	1887(明治20)年 6月11日 11 June 1887	不明 Unknown	有栖川宮	M109(剥製 Skin)	来園(博物館, 1887b)
6	洋犬	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	メス Female	繁殖 Breeding	1887(明治20)年 6月11日 11 June 1887	不明 Unknown	有栖川宮		来園(博物館, 1887b)
7	洋犬	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	メス Female	繁殖 Breeding	1887(明治20)年 6月11日 11 June 1887	不明 Unknown	有栖川宮		来園(博物館, 1887b)
8	狼児	ニホンオオカミ <i>C. l. hodophilax</i>	不明 unsexed	岩手県 Iwate Prefecture	1888(明治21)年 7月14日 14 July 1888	不明 Unknown	東京教育博物館 Tokyo Education Museum		来園(博物館, 1888)
9	狼児	ニホンオオカミ <i>C. l. hodophilax</i>	メス Female	岩手県 Iwate Prefecture	1888(明治21)年 7月14日 14 July 1888	1892年(明治25) 年6月24日 24 June 1892	東京教育博物館 Tokyo Education Museum		来園(博物館, 1888), 死亡(帝国博物館, 1892), 性(秋山, 1892)
10	洋犬	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	メス Female	不明 Unknown	1889(明治22)年 4月10日 10 April 1889	1894(明治27)年 6月7日 7 June 1894	ガビニス(英国 公使館書記官)		来園死亡(帝国博物館, 1894a)
11	狼児	タイリクオオカ ミの一亜種 <i>C. lupus</i>	オス Male	清国(中国) 山東省 Shandong, China	1891(明治24)年 7月3日 3 July 1891	1895(明治28)年 4月21日 21 April 1895	林 権助	M101(剥製 Skin) M838 (骨格 Skeleton)	来園(帝国博物館, 1891), 死亡(帝国博物館, 1895a)
12	狗	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	オス Male	北海道 Hokaido	1893(明治26)年 1月31日 31 January 1893	1895(明治28)年 9月2日 2 September 1895	箕作麟祥	M461(剥製 Skin) M462 (骨格 Skeleton)	来園(帝国博物館, 1893), 死亡(帝国博物館, 1895b)
13	イヌ	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	オス Male	不明 Unknown	1894(明治27)年 9月6日 6 September 1894	1899(明治32)年 7月22日 22 July 1899	上野動物園		捕獲(帝国博物館, 1894b), 死亡(帝国博物館, 1899a)
14	洋犬 レオ号	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	オス Male	獨乙(ドイツ) Germany	1899(明治32)年 3月27日 27 March 1899	1900(明治33)年 10月20日 20 October 1900	皇太子殿下		来園(帝国博物館, 1899b), 死亡(東京帝室博物館, 1900a)
15	ちんご	ディンゴ <i>C. lupus dingo</i>	オス Male	豪州(オーストラ リア) Australia	1899(明治32)年 10月31日 31 October 1899	1901(明治34)年 4月5日 5 April 1901	シドニー動物園		来園(帝国博物館, 1899c), 死亡(東京帝室博物館, 1901a)
16	ちんご	ディンゴ <i>C. lupus dingo</i>	メス Female	豪州(オーストラ リア) Australia	1899(明治32)年 10月31日 31 October 1899	1901(明治34)年 4月25日 25 April 1901	シドニー動物園		来園(帝国博物館, 1899c), 死亡(東京帝室博物館, 1901a)
17	イヌ (ヂンゴ)	ディンゴ <i>C. lupus dingo</i>	オス Male	動物園繁殖 Breeding at the zoo	1900(明治33)年 4月1日 1 April 1900	1905(明治38)年 8月29日 29 August 1905	上野動物園		出生(東京帝室博物館, 1900b), 死亡(動物総目録)
18	イヌ (ヂンゴ)	ディンゴ <i>C. lupus dingo</i>	メス Female	動物園繁殖 Breeding at the zoo	1900(明治33)年 4月1日 1 April 1900	1901(明治34)年 4月11日 11 April 1901	上野動物園		出生(東京帝室博物館, 1900b), 死亡(東京帝室博物館, 1901a)
19	イヌ (ヂンゴ)	ディンゴ <i>C. lupus dingo</i>	メス Female	動物園繁殖 Breeding at the zoo	1900(明治33)年 4月1日 1 April 1900	1901(明治34)年 5月7日 7 May 1901	上野動物園		出生(東京帝室博物館, 1900b), 死亡(東京帝室博物館, 1901b)
20	犬 ニューフ ワンドラ ンド種	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	メス Female	不明 Unknown	1900(明治33)年 5月23日 23 May 1900	1907(明治40)年 1月20日 20 January 1907	西郷従道		来園(東京帝室博物館, 1900c), 死亡(動物総目録)

表4. 続き.  
Table 4. Continued.

ID	来園時の名称 Name at the zoo	推定される種 Presumed species	性別 Sex	産地 Locality	来園日 Date of arrival at the zoo	死亡日 Date of death	提供者 Donor	該当標本 (台帳番号) Catalog number	出典 Reference
21	犬	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	オス Male	亜米利加(アメリカ) America	1902(明治35)年 7月4日 4 July 1902	1903(明治36)年 8月11日 11 August 1903	臼井哲夫	M650 (骨格 Skeleton)	来園(東京帝室博物館, 1902a). 死亡(東京帝室博物館, 1903)
22	犬(ダックスハウンド)	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	オス Male	獨逸(ドイツ) Germany	1902(明治35)年 7月16日 16 July 1902	1905(明治38)年 12月以前 Before December 1905	酒井忠美	M601(剥製 Skin)	来園(東京帝室博物館, 1902b). 死亡(東京帝室博物館, 1905)
23	ジャッカル	キンイロジャッカル <i>C. aureus</i>	オス Male	印度(インド)ヒマラヤ Himalaya, India	1902(明治35)年 7月5日 5 July 1902	1907(明治40)年 11月18日 18 November 1907	中村春吉		来園(東京帝室博物館, 1902c). 死亡(動物総目録)
24	犬	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	メス Female	西藏国春碑(チベット・チャンピ) Tibet	1903(明治36)年 9月18日 18 September 1903	1910(明治43)年 5月23日 23 May 1910	成田安輝		来園(東京帝室博物館, 1903). 死亡(東京帝室博物館, 1910)
25	犬名称 チイルコ	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	オス Male	蒙古(モンゴル) Mongolia	1906(明治39)年 6月7日 7 June 1906	1908(明治41)年 3月16日 16 March 1908	皇太子殿下		来園(東京帝室博物館, 1906b). 死亡(東京帝室博物館, 1908)
26	犬名称 ニエスカ	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	メス Female	蒙古(モンゴル) Mongolia	1906(明治39)年 6月7日 7 June 1906	1911(明治44)年 3月4日 4 March 1911	皇太子殿下		来園(東京帝室博物館, 1906b). 死亡(東京帝室博物館, 1911a)
27	犬	イエイヌ <i>C. l. familiaris</i>	オス Male	蒙古(モンゴル) Mongolia	1906(明治39)年 6月15日 15 June 1906	1910(明治43)年 12月27日 27 December 1910	渡辺水哉		来園(東京帝室博物館, 1906c). 死亡(東京帝室博物館, 1910)

\*: 本個体は上野動物園前身の内務省博物館で飼育.

\*: This individual was kept at the Museum of the authority of the Ministry of Home Affairs, the predecessor of Ueno Zoo.

権助から帝室博物館に送られた中国山東省産タイリクオオカミ *C. lupus* の一亜種で、上野動物園で飼育され、1895年4月21日に死亡した(表4, 帝国博物館, 1891, 1895a)。天産部台帳によれば、M101は死亡した1895年4月に剥製標本として上野動物園から帝室博物館に引き継がれた(表3)。

M831は前述の通り、天産部台帳の記載「二十二年旧博物館引継(元動物園飼養)」から、1889年以前に上野動物園で飼育されていた個体であった。この個体の候補となる上野動物園の飼育個体はイエイヌ8頭、ニホンオオカミ2頭の計10頭であった(表4, ID: 1から10)。この中で天産部台帳に記載されたM831「やまいぬ」に該当するのは、イエイヌが除外されるため、ニホンオオカミ2頭のみであった。この2頭は岩手県で採集された幼獣で、1888年7月14日に東京教育博物館(現・国立科学博物館)が帝室博物館へ寄贈し、附属施設だった上野動物園で飼育された(表4, 博物館, 1888)。このうち、1頭は1892年6月24日に死亡、もう1頭は死亡日の記録が見つからなかった(表4, 帝国博物館, 1892)。1892年6月24日に死亡した個体は、死後、農科大学(現・東京大学農学部)で解剖され、メスであった(表4, 秋山, 1892)。M831は1889年までに標本が存在していたことか

ら、1892年6月24日に死亡した個体ではなく、死亡日不明の個体と推定される。ただし、1888年来園した岩手県産ニホンオオカミをM831とする確実な記録は見つからなかった。なお、現在東京大学農学部が所蔵するニホンオオカミの剥製標本は、1881年6月に岩手県から購入されたもので、同年に開催された第2回内国勸業博覧会の出品物とされる(福田, 1948)。したがって、1888年に上野動物園に来園した2頭とは別個体であった。

M838も天産部台帳で「二十二年旧博物館引継(元動物園飼養)」とされた標本で、1889年以前に上野動物園で飼育された中国産「やまいぬ」であった(表3)。しかし、上野動物園の飼育記録で中国産イヌ属の最古記録は、M101とされた1891年来園の山東省産タイリクオオカミであり、これ以前の中国産イヌ属の来園記録は見つからなかった(表4)。このことから、1891年来園のタイリクオオカミから剥製標本と骨格標本作製し、剥製標本をM101、骨格標本をM838として天産部台帳に登録したと推定される。帝室博物館が所蔵していた哺乳類標本には、例えばキリン *Giraffa camelopardalis* のM567剥製標本とM617骨格標本のよう、同一個体から剥製と骨格が作製され、別の番号で登録された事例が複数見られた(川田ほ

か、2023)。

M838骨格標本とM101剥製標本が同一個体であるなら、M838は1891年に上野動物園に来園していたことになるため、1889年にはすでに博物館に収蔵されていたとする天産部台帳の記載との間に齟齬が生じる。M829からM842までは、M833の「となかひ」を除き、いずれも「二十二年旧博物館引継(元動物園飼養)」の記述がある標本で、古い標本を同時期にまとめて登録したものと推察される。したがって、1889年以前に上野動物園で飼育されていたM831についても、1889年以降に上野動物園に来園していた可能性が生じることになる。

#### 4)『東京帝室博物館列品台帳』による当該標本の検証

天産部台帳には登録した年代の記載がないため、当該標本の候補であるM101、M831、M838が確実に存在した年代が不明確であった。天産部台帳とは別の『東京帝室博物館列品台帳』を調べた結果、第一編にM831「ヤマイヌ」剥製、M838「ヤマイヌ」仮骨格、第二編にM101「豺」剥製の記載があり、台帳の冒頭「例言」に1910年12月末までの標本を1911年に整備したことが書かれていた(東京帝室博物館、1911b, 1911c)。したがって、M101、M831、M838は1911年には存在していたことが明確になった。

『東京帝室博物館列品台帳』では、標本1点につき1ページごとに番号、品目、価格、数量、作者産地、形状(寸法など)、受理顛末、備考記事が記載されていた(東京帝室博物館、1911b)。この記載項目から同台帳は、帝室博物館全館で統一した様式で作成された中央列品台帳と考えられる(東京国立博物館(1973)P.324に中央列品台帳の記載項目がある)。以後、『東京帝室博物館列品台帳』を「中央列品台帳」と表記する。

天産部台帳は番号順に表形式で記載された台帳であったが、中央列品台帳は番号順ではなく、標本の由来ごとにまとめられていた。例えば、M831が記載されていた第一編には、M5からM882までの「二十二年旧博物館引継」標本だけが綴られていた(東京帝室博物館、1911b)。このことから、天産部に備え付けられた天産部台帳から(小林・加藤、2017)、清書したものが中央列品台帳と推測される。中央列品台帳のM831の記載を見ると、「番号：哺乳類M第八三一號、品目：ヤマイヌ、

価格：明治四十四年 月評價金 壹圓也、数量：壹頭、形状：剥製、受理顛末：明治二十二年 月 舊博物館引継、備考記事：(元動物園飼養)」(評價金 壹圓=評価金 1円、壹頭=1頭)で、「作者産地」欄には記載がなく、記載内容は天産部台帳とほぼ同じであった(東京帝室博物館、1911b)。

中央列品台帳によりM101、M831、M838が1911年に確実に存在していたことが判明したため、M101、M831、M838と上野動物園で飼育され死亡したイヌ属の記録を1911年まで繰り下げて照合した。1911年以前までに上野動物園で飼育され死亡したイヌ属の飼育記録は、イエヌ18頭、ディング *C. lupus dingo* 5頭、ニホンオオカミ2頭、中国山東省産タイリクオオカミの一亜種、キンイロジャッカル *C. aureus* 各1頭の計27頭であった(表4、ID:1から27)。前述のとおり天産部台帳に「いぬ」や犬種で記入されているイエヌとM101に該当する中国山東省産タイリクオオカミの一亜種を除くと、M831の候補はディング5頭、ニホンオオカミ2頭、キンイロジャッカル1頭に絞られる。動物園への受け入れ時の名称は、ディングは「ぢんご」、「イヌ(ヂンゴ)」、ニホンオオカミは「狼兎」、キンイロジャッカルは「ジャッカル」であった(表4)。一方、天産部台帳でディングは、飼育個体とは別個体がM106ヂンゴとして受け入れられていた(表3)。キンイロジャッカルは天産部台帳に同種の記載はなかったが、標本を受け入れる場合も、動物園への受け入れ時の名称「ジャッカル」と記載されると考えられ、このうち、「やまいぬ」として天産部台帳に登録されたのは、中国山東省産タイリクオオカミの一亜種とニホンオオカミ2頭となる。しかし、前者はM101に該当するため、M831はニホンオオカミと推測される。したがって、1911年以前までの上野動物園の飼育記録を検討しても、M831は1888年来園した岩手県産ニホンオオカミであるとの推定に変わりはない。なお、上野動物園には、1906年3月に標本商のアラン・オーストンから中国産狼(タイリクオオカミ)が送られているが、1914年1月に死亡していた(東京帝室博物館、1906a; 東京帝室博物館、1914)。この個体は1911年時点では標本が存在していないため、M101、M831、M838とは合致しなかった。

また、中央列品台帳には剥製の大きさが記載されている場合があった。M831には記載がなかったが、M101には「高2尺1寸、幅3尺9寸」と記載さ

れていた(東京帝室博物館, 1911b, 1911c). これを換算すると高さ636.3mm, 幅1181.7mmとなる. 当該標本の頭高と肩高はそれぞれ530mmと460mmで(表2), どの高さを計測しても明らかに低い値と考えられる, 幅は鼻から尾の先の全長を示すと推察され, 当該標本では980mmなので(表2)明らかに小さく, M101であるとは考えられない. したがって, 当該標本はM831と推定される.

### 5) 当該標本の問題点の検証

これまでの検討の結果, 当該標本はM831と推定されたが, 天産部台帳でM831は廃棄されていたという問題が解決されていなかった. 天産部台帳のM831の廃棄の記載は, 標本番号に斜線が引かれ, 産地欄の右側に「廃」のスタンプが押印されていた(図3). 同様の記載は, 帝室博物館が所蔵していた鳥類標本の天産部台帳でも見られ, この中には現存する標本があり, 鳥類標本の台帳では, 帝室博物館で標本を管理していた時代の記載ではなく, 国立科学博物館へ標本が移管されてから, 標本の所在を十分確認できない状況で書き加えられたと推測されている(小林・加藤, 2017). 哺乳類標本では, M831のほかに, M256「はりむぐら *Echidna hystrix* Home」(ハリモグラ *Tachyglossus aculeatus*), M290「ビゾン *Bos americanus* Gm.」(アメリカバイソン *Bison bison*) などでも天産部台帳に廃棄の記載が見られるが, 標本は国立科学博物館に現存している(NSMT-M256, NSMT-M290). したがって, 鳥類標本の事例と同様に天産部台帳で廃棄と記載されていたM831が現存していても矛盾はないと考えられる.

次に当該標本の産地が山東省産とされていた点については, 斉藤(1938)ではM831は廃棄とし, 骨格標本であるはずのM838を「山東省産の剥製」と記載していた. 大浦(1934)では当該標本とされる標本を「山東省産狼」と説明していた. これらのことから斉藤(1938)や大浦(1934)では, 当該標本をM838と認識していたと推測する. なお, 斉藤(1938)では天産部台帳の「ヤマイヌに関係あるもの全部抜書」とされているにもかかわらず, M101山東省産ヤマイヌ剥製とM102コヨーテの2点が記載されていなかった. 斉藤(1938)や大浦(1934)の状況を勘案すると, 1934年から1938年当時の当該標本には, 「M838」と書かれたシールが貼られていたと推測できる.

これらの状況をまとめると, 当該標本に「M838」

のシールが貼られていたことで, 国立科学博物館(当時は東京博物館, あるいは東京科学博物館)ではM831が廃棄されたと考え, 天産部台帳に記述した. また, 中国山東省産ヤマイヌの剥製標本であったM101が現存しておらず, M838は天産部台帳で中国産であったため, 「M838」のシールが貼られた当該標本を山東省産の剥製と誤認したと推測する.

本研究では当該標本の外部形態, 帝室博物館所蔵のイヌ属標本, 上野動物園のイヌ属の飼育記録を検討した. その結果, 当該標本はM831と推定され, M831は1888年に上野動物園に来園した岩手県産ニホンオオカミとされるので, 当該標本はニホンオオカミの剥製標本であると結論する. 本研究により, これまで見落とされていたニホンオオカミの剥製標本が見出された可能性が高い. なお, 本研究では「M838」を示すシールがいつ当該標本の台座から剥がされ, 東京科学博物館と印字された台座裏の標本ラベルがいつ貼られたか, その時期を明らかにすることはできなかった. これらの時期が判明すれば当該標本がこれまでにニホンオオカミの剥製標本として認識されていなかったことを補強する情報となりうるので, 今後の課題としたい.

### 謝 辞

本研究で活用した資料は, 東京国立博物館と上野動物園資料室で閲覧した. 特に東京国立博物館の資料については, マイクロフィルムから読み取れなかった部分を元資料から調査する機会をいただいた. 資料調査にあたっては, 小森日出海氏に多大なご協力をいただいた. ご協力いただいた全ての方々, また有益なコメントをいただいた2名の査読者にこの場を借りて感謝申し上げる.

### 引用文献

- 秋山直三, 1892. 上野動物園飼養剖検記事. 中央獣醫會雑誌5(1): 31-38.  
 福田信正, 1948. 東大農學部收藏のヤマイヌの標本. 採集と飼育10(10-11): 348, 350.  
 福田信正, 1949. 再びヤマイヌの収蔵標本について. 採集と飼育11(2): 45.  
 博物館, 1887a. 第一六號 犬牡一頭斃死ノ件. 明治廿十年動物録. 館資564 (マイクロフィルムNo. M1653). 東京国立博物館所蔵資料.

- 博物館, 1887b. 第一〇號 洋犬牝牡四頭出生ノ件. 明治二十年動物録. 館資564 (マイクロフィルムNo. M1653). 東京国立博物館所蔵資料.
- 博物館, 1887c. 第一四號 洋犬兒牡一頭斃死ノ件. 明治二十年動物録. 館資564 (マイクロフィルムNo. M1653). 東京国立博物館所蔵資料.
- 博物館, 1888. 第八號 岩手縣産狼兒二頭東京教育博物館ヨリ寄贈ノ件. 明治廿一年動物録. 館資564 (マイクロフィルムNo. M1653). 東京国立博物館所蔵資料.
- 平岩米吉, 1981. 狼: その生態と歴史. 動物文学会, 東京. 308 pp.
- 今泉吉典, 1960. 原色日本哺乳類図鑑 保育社の原色図鑑: 第7. 保育社, 大阪. 196 pp.
- 石黒直隆, 2012. 絶滅した日本のオオカミの遺伝的系統. 日獣会誌65(3): 225-231.
- 石黒直隆・松村秀一・寺井洋平・本郷一美, 2021. オオカミヤマイヌと呼ばれたシーボルトが残したニホンオオカミ標本の謎. 日獣会誌74(6): 389-395.
- 川田伸一郎・小森日菜子・郡司芽久, 2023. 明治時代のキリンの標本について. 国立科学博物館研究報告A類(動物学)49: 81-95.
- 北村直司・小原 巖・南 雅代・中村俊夫, 1999. 熊本県八代郡泉村京丈山洞穴より産出したニホンオオカミ全身骨格. 熊本県博物館報11: 35-69
- 小林さやか・加藤 克, 2017. 明治・大正期に収集された国立博物館の鳥類標本コレクションの検証—山階鳥類研究所所蔵の帝室博物館旧蔵鳥類標本の歴史的背景とその評価—. 日本動物分類学会誌43: 42-61.
- 国立科学博物館, 1977. 国立科学博物館百年史. 国立科学博物館, 東京. 898 pp.
- 国立科学博物館(編), 2016. 地球館ガイドブック. 国立科学博物館, 東京. 100 pp.
- 小森日菜子, 2021. ヤマイヌ〜私が解明したい謎のニホンオオカミ〜. 2021年(第25回) 図書館を使った調べる学習コンクール小学生の部(高学年) 文部科学大臣賞.
- 南 雅代・北村直司・中村俊夫, 1999. 熊本県八代郡泉村京丈山洞穴より産出したニホンオオカミ全身骨格標本のAMS14C年代. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書10: 189-198.
- 内務省博物館, 1875. 第一號 圈養動物表(三月及四月中). 明治八年動物録. 館資563 (マイクロフィルムNo. M1653). 東京国立博物館所蔵資料.
- 農商務省博物館, 1882. 第八號 拂國産獵犬一頭拂國代理公使「トニーコント」ヨリ獻納竝尾長鶏外一點答謝トシテ同人へ下付ノ件. 明治十五年動物録. 館資563 (マイクロフィルムNo. M1653). 東京国立博物館所蔵資料.
- 農商務省博物館, 1883. 第一八號 六月三十日現在畜養動物目録會計局へ送付ノ件. 明治十八年動物録. 館資564 (マイクロフィルムNo. M1653). 東京国立博物館所蔵資料.
- 小原 巖, 2002. ライデン国立自然史博物館所蔵のニホンオオカミ及び日本在来犬標本について. *Animate 農大動物研究会*3: 17-24.
- Ohdachi, D. S., Ishibashi Y., Iwasa A. M., Fukui D. and Saitoh T. 2015. *The Wild Mammals of Japan, Second edition*. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto. 506 pp.
- 大浦 豊, 1934. 日本犬の研究 遺伝と疾病・日本狼の現在. 三省堂, 東京. 208 pp.
- 齊藤 弘, 1938. 東京科学博物館倉庫内に発見せられたるヤマイヌの全身骨格並に其他の同資料に就いて. 博物館研究11: 2-7.
- 斎藤弘吉, 1964. 日本の犬と狼. 雪華社, 東京. 363 pp.
- 鈴木千尋・佐々木基樹, 2023. ニホンオオカミの形態学〜その研究史と今後の発展〜. *哺乳類科学*63(1): 15-27.
- 帝国博物館, 1891. 第一六號 清國山東産狼兒一頭領事林權助ヨリ獻納ノ件. 明治廿四年動物録. 館資565 (マイクロフィルムNo. M1654). 東京国立博物館所蔵資料.
- 帝国博物館, 1892. 第一九號 一月五日以降動物増減數取調ノ件. 明治廿五年動物録. 館資566 (マイクロフィルムNo. M1654). 東京国立博物館所蔵資料.
- 帝国博物館, 1893. 第三號 北海道産狗一頭東京市麴町區富士見町四丁目箕作麟祥ヨリ獻納ノ件. 明治廿六年動物録. 館資566 (マイクロフィルムNo. M1654). 東京国立博物館所蔵資料.
- 帝国博物館, 1894a. 第一一號 六月中動物増減數取調ノ件. 明治廿七年動物録. 館資566 (マイクロフィルムNo. M1654). 東京国立博物館所蔵資料.
- 帝国博物館, 1894b. 第一八號 九月中動物増減數取調ノ件. 明治廿七年動物録. 館資566 (マイクロフィルムNo. M1654). 東京国立博物館所蔵資料.
- 帝国博物館, 1895a. 第一五號 四月中動物斃死數取調ノ件. 明治廿八年動物録. 館資567 (マイクロフィルムNo. M1655). 東京国立博物館所蔵資料.
- 帝国博物館, 1895b. 第三六號 九月中動物増減數取調ノ件. 明治廿八年動物録. 館資567 (マイクロフィルムNo. M1655). 東京国立博物館所蔵資料.
- 帝国博物館, 1899a. 第三六號 七月中動物増減數取調ノ件. 明治卅二年動物録. 館資569 (マイクロフィルムNo. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- 帝国博物館, 1899b. 第一四號 洋犬一頭及熊兒二頭御下付ニ付キ東宮職ヨリ受領ノ件. 明治卅二年動物録. 館資569 (マイクロフィルムNo. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- 帝国博物館, 1899c. 第五三號 濠州「じんごを」犬二頭「かんがるう」一頭及「はりむぐら」一頭交換ノ爲「シドニー」動物園ヨリ回付ノ件. 明治卅二年動物録. 館資569 (マイクロフィルムNo. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- Temminck, C. J. 1839. Over de kennis en de verbreiding der zoogdieren van Japan. *Tijdschrift voor Natuurlijke Geschiedenis Physiologie*.5: 273-293.
- Temminck, C. J. 1842-1844. *Aperçu général et spécifique sur les mammifères qui habitent le Japon et les îles que en dépendent*. In (Ph. F. de Siebold, C. J. Temminck and H. Schlegel) *Fauna Japonica*. pp. 1-59, pls. 1-20, Arnz et Socios, Lugduni Batavorum.

- 東京国立博物館, 1973. 東京国立博物館百年史. 東京国立博物館, 東京. 801 pp.
- 東京帝室博物館, 1900a. 第四三號 皇太子殿下ヨリ御下付ノ洋犬一頭斃死ニ付キ病状經過等東宮職へ通牒ノ件. 明治卅三年動物録. 館資569 (マイクロフィルム No. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1900b. 第一五號 三四兩月中動物増減數取調ノ件. 明治卅三年動物録. 館資569 (マイクロフィルム No. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1900c. 第二〇號 犬(ニューフンドラント種)牝一頭侯爵西郷従道ヨリ献納ノ件. 明治卅三年動物録. 館資569 (マイクロフィルム No. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1901a. 第一八號 四月中動物斃死數取調ノ件. 明治卅四年動物録. 館資570 (マイクロフィルム No. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1901b. 第二三號 五月中動物斃死數取調ノ件. 明治卅四年動物録. 館資570 (マイクロフィルム No. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1902a. 第二六號 亞米利加産犬牝一頭東京市麻布區新網町一丁目臼井哲夫ヨリ献納ノ件. 明治卅五年動物録. 館資570 (マイクロフィルム No. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1902b. 第二九號 獨逸國産犬牝一頭東京市牛込區南榎町酒井忠美ヨリ献納ノ件. 明治卅五年動物録. 館資570 (マイクロフィルム No. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1902c. 第二八號 印度産「ハイエナ」外二種計三頭在孟買中村春吉ヨリ献納ノ件. 明治卅五年動物録. 館資570 (マイクロフィルム No. M1656). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1903. 第三二號 西蔵國春碑産犬牝一頭東京市赤坂區檜町成田安輝ヨリ献納ノ件. 明治卅六年動物録. 館資571 (マイクロフィルム No. M1657). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1905. 第九七號 明治卅七, 八年中動物園ヨリ引繼動物屍体本年中製作ノ標本退羅産「タ、カヒウラ」外三十點列品ニ編入ノ件. 明治卅八年列品録. 館資399-1 (マイクロフィルム No. M1272). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1906a. 第八號 清國産狼一頭及山羊(牛製)一頭ヲ本館動物園飼養四不像角ノ交換品トシテ横濱在留「アラン・オーストン」ヨリ受入ノ件. 明治卅九年動物録. 館資572 (マイクロフィルム No. M1657). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1906b. 第二一號 第四軍司令官野津大將献上ノ蒙古産犬牝二頭及井口少將献上ノ滿洲産狐一頭皇太子殿下ヨリ御下付ノ件. 明治卅九年動物録. 館資572 (マイクロフィルム No. M1657). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1906c. 第二二號 蒙古産犬牝一頭陸軍歩兵大佐渡邊水哉ヨリ献納ノ件. 明治卅九年動物録. 館資572 (マイクロフィルム No. M1657). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1908. 第三八號 一月一日ヨリ十二月三十一日マテノ動物増減數取調ノ件. 明治四十一年動物録. 館資573 (マイクロフィルム No. M1658). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1910. 第三六號 一月一日ヨリ十二月三十一日マテ動物増減數取調ノ件. 明治四十三年動物録. 館資574 (マイクロフィルム No. M1658). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1911a. 第四號 皇太子殿下ヨリ御下付ノ犬牝一頭斃死ニ付キ東宮職へ通牒ノ件. 明治四十四年動物録. 館資574 (マイクロフィルム No. M1658). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1911b. 東京帝室博物館列品台帳第一編 自創立至明治22年5月16日 天産部第一冊 動物区哺乳類. 館資2463. 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1911c. 東京帝室博物館列品台帳第二編 自明治22年5月16日至明治34年12月 天産部第一冊 動物区哺乳類. 館資2529. 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1912. 第一九號 國華外五百點學習院女學部へ無償讓渡稟議ノ件. 列品録三 修理出陳等ノ部 明治四五年-大正元年. 館資409 (マイクロフィルム No. 1286). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1914. 第二號 ヤマイヌ斃死ノ件. 大正三年動物録. 館資577 (マイクロフィルム No. M1660). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1924. 天産部列品削除目録. 館資827 (マイクロフィルム No. M2927). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1926a. 十四 學習院長ヨリ受領證送付ノ件. 列品録天産部列品引繼關係. 館資508 (マイクロフィルム No. M1394). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京帝室博物館, 1926b. 十九 元天産部列品ヲ文部省へ無償讓渡ノ件伺. 列品録大正15年. 館資508 (マイクロフィルム No. M1394). 東京国立博物館所蔵資料.
- 東京都恩賜上野動物園, 1982. 上野動物園百年史. 東京都恩賜上野動物園, 東京. 593 pp.
- 吉行瑞子, 1989. ニホンオオカミを鑑定する 後足の遺物から. どうぶつと動物園41: 362.